

A portrait of a man with short dark hair and glasses, wearing a dark suit, light blue shirt, and grey tie. He is speaking and looking slightly to his left. A green triangle is visible on the left side of the image.

A 基本的な方針を盛り込む予定



A 都市計画区域内の敷地に住宅を建築する場合は、法律による接道義務の規定に従う必要がある。接道義務とは、幅員が4 m未満の道路のみが敷地に接し、その敷地に住宅を建築しようとする場合、道路幅員を4 m以上にする必要がある。このような場合、必要な面積の土地を寄付いただき、町道として管理をしている。



A 県・渋川市・当町の３者による勉強会を実施した。現在、道路整備の進め方について、課題の整理、役割分担などの協議、確認を実施している。

A 防犯灯として答弁するが、設置後の電気料は自治会負担となるため、自治会から上げられる要望に応じて予算の範囲内で設置を進めている。

町内幹線道路の整備計画の実情は



いづか けんじ
飯塚 憲治 議員



A 都市計画マスタープランを策定中

Q 県道・町道合わせて、町内の幹線道路の現在と将来への整備計画は。

A 県道前橋伊香保線吉岡バイパス延伸は事業着手に向けて、県・渋川市と3者で協議中。漆原総社線は第1工区を整備推進中、産業団地整備に関連したアクセス道路整備にも着手。また改定中の都市計画マスタープランの中で、幹線道路の整備方針を策定予定。

Q おおむね15年後から想定される町の人口減少。町の持続的発展を目指し、将来を見据えた業務執行体制を整える準備は。

A 今後の人口減少を予測し、10年20年先を見据えた業務執行体制の見直しは、将来に対して果たすべき行政責任と考えている。現在も数多くの課題を抱え、課を横断した柔軟な連携体制で取り組んでいる。機構改革は、社会情勢も見極めて柔軟に対応する。



延伸が期待される吉岡バイパス（宮東交差点）

生成 AI 不適切利用の防止策は

利用関係者すべてに研修会を実施

Q 教育計画 ^{ヒバリ} HiBALI プラン 5.0 では、AI ソフト導入計画がある。この教育ソフト使用時の心配事、児童・生徒による生成 AI の不適切利

用の悪影響の防止方策は。

A 悪影響の防止は児童・生徒をはじめ、全ての教育関係者における不正の認識と防止意識が必要。利用対象の中学2・3年生には、認定トレーナーが生成 AI 利用のメリット・デメリットの学習を実施予定。さらに保護者・教職員・学校代表者・教育委員会事務局職員などを対象に町独自の研修会を実施予定。



生成 AI の適正な有効活用が望まれる

Q GIGA スクール構想は、児童・生徒にとっては大きな変革であった。学習内容の定着が一律一様に得られているのかが心配だ。この波につまずくことなく、誰も取り残さない、セーフティーネット的な教育指導が求められるが。

A この教育構想は、単なる ICT の利用を進めるものではなく、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。個別最適・協働的な学習を通して、社会を生き抜く力を身に付けることも目標だ。しかし、児童・生徒には個別の能力・特性があり一律に成果を得るには難しい面がある。個別的支援が必要であり、いかに指導をしていくのかが、各担当また教員に求められていることと認識している。必要な個別指導はしっかり進めていきたいと考えている。

地域通貨導入の展望は



こばやし しずや
小林 静弥 議員



A 具体的な予定はない

Q 吉岡町では、県内の地域通貨の制度ならびに利用実績、成果や課題、考えられるメリット・デメリットなどを調べているか。また、導入可能性の展望は。

A 地域通貨のメリットは、地域経済の活性化、地元の雇用創出。一方、デメリットは、管理コストの問題、システム構築後の運営費用など。現時点では、費用対効果も含め、情報収集を行っており、具体的な予定はない。



導入にはまだまだ情報収集が必要
(渋川市では「渋 Pay」で地域活性化)

Q 渋川市や前橋市において実証実験やサービスの導入が段階的に行われている。県が推奨する GunMaas 構想について、町としての認識と、現段階での関与状況はどの程度か。

A GunMaas は、目的地までの経路と移動手段を検索できる便利なシステムだが、吉岡町では、移動手段が極めて少ないため、まずは自動車以外の移動手段を確保することが必要であると考えている。ついては、既存の公共交通にとらわれず、都市計画マスタープランの改定の中で検討していきたい。

Q 駒寄スマート IC の周辺道路や車線の多い道路と町道との交差点付近に、誤進入や逆走の注意を促すような、路面標示や案内標識の設置の考えはあるか。

A 県管轄の道路と町道が交差する部分は、県と連携を図って注意の看板など設置に向けて検討していきたい。

スマホで写真を送れるシステムは 本年度中には住民向け対応を

Q 町内で、色あせたり薄くなったりして見えにくくなっている、老朽化した道路標識や横断歩道や路面標示などの定期点検はしているか。また、スマホでとった写真を簡単に送れるようなシステムなどはあるか。

A 定期点検はしておらず、日常の業務の中で把握するよう努めている。町では、既存のシステムを活用し、道路異常箇所などの報告が二次元コードを使って写真が送れるようなシステムを、本年度中には、住民向けに対応できるよう進めている。



危険箇所などの写真をスマホで町へ
(見えにくい標識と路面標示)

Q 10 年連続で群馬県の高校生の自転車事故は全国ワーストワン。子どもたちの自転車事故防止と交通安全の確保対策は。

A 事故ワーストワン、そういうことをなくすための基本が、小・中学校の交通安全教育や、身近な大人が交通ルールを守る姿を子どもに見せることにある。その上で運転時の交通ルール順守の啓発など、自転車事故の減少を図っていきたい。

絶景スポットなどで 認知度アップを



おおい しゅんいち
大井 俊一 議員



A デジタル化で情報発信

Q 吉岡町のフォト・絶景・二年詣^{にねんもうで}スポットなどを活用した認知度アップは。

A 城山みはらし公園・船尾滝・上毛大橋など利用できるか検討していきたい。伊香保に向かう観光ルートとして、町外への情報発信やプロモーション活動に有益な手段であり、積極的なPRに努め、マップのデジタル化など多くの人の目に留まるよう研究を進める。



インスタ映える① 城山みはらし公園の初日の出

Q 愛玩犬のいる、潤いのある地域社会づくりに
ついて町の考えは。

A 犬を飼っている人・いない人双方が、お互いに納得できるような施策の実現を研究したい。

Q 町民生活に潤いをもたらすイベントの開催は。

A ふるさと祭りはコロナの影響で令和2・3年は中止、4年は飲食禁止、参加団体や従事者のアンケートは実施したが、来場者の意向調査は実施していない。参加団体や関係機関と協力して誰もが来てよかったと思えるようにしていければと考え、鋭意検討したい。

Q 吉岡町の日本一の活用は。

A 町では把握しているものがない。

Q 今は廃業してしまった、日本一の線香花火を扱う小倉の花火屋さんや、医師の原沢文仲^{はらさわぶんちゅう}（医業600年「野田の原沢」^{いめい}の威名を関東一円に轟かせた。）などあるが。

A 日本一と呼べるものを創生し、活用していくことは、町づくりや地域活性化につながるものとして取り組んでいきたい。

町歴史活用で人材育成を

HiBALI プランなど推進して人材育成

Q 町の歴史を活用した、子どもたちの郷土愛育成と、心に自信を持って社会や世界に羽ばたく人材育成は。

A 小学校社会科副読本「私たちの吉岡町」や「吉岡村誌」、高齢者の指導などを活用して、郷土の文化・歴史の理解を深め、郷土愛育成につなげている。本年度から転入・新採用教職員の町内文化財の現地研修をスタート予定。「HiBALI プラン」や町総合計画の「学びのまち・吉岡」の推進は、社会や世界に羽ばたく人材育成に通じるもの。



インスタ映える② 彼岸花に囲まれた文化財センター

長寿祝金条例の改正を



こいけ はるお
小池 春雄 議員



A 改善に向け検討

Q 令和6年度に吉岡町敬老年金条例が廃止され、長寿祝金条例と改正された。80歳と85歳が外され、また、本年度介護慰労金支給要綱の改正を行った。これらは吉岡町が他市町村に誇れる制度であったが、対象者を減らし、金額も大幅に減らすという時代に逆行した施策である。高齢者が安心して、長生きを喜べる町にしていきたいと思います。考え方を改めていただきたいと思います。

A 高齢者の皆さんが必要としている施策はどのようなものがあるのか、施策の全体的な点検・見直しを含め、施策の拡充や新たな施策の導入などが行えるか、関係機関などから意見を聞き、検討を進めていきたい。

Q 介護慰労金では日常生活に著しく支障のある在宅の高齢者を介護する家族に対して、その労をねぎらうはずが、要介護1・2の人に対しての2万円をなくし、要介護3の人は4万円を3万円に減額、要介護4の人は10万円を8万円に減額、要介護5の人は15万円を12万円に減額。このようなことをするのは高齢者は誰も喜ばない。どのような人たちが、協議でこのようなことを決定したのか。

A 財政状況を再確認し、改善に向けて検討する。



高齢者が安心して、長生きを喜べる町へ

給食費の無償化を

一定の負担を求める

Q 高齢者福祉と子育て支援策では、予算決算常任委員会からも給食費無償化などの要望書が出されているが、どのような対応をしていくのか。

A 学童保育の入所条件の緩和は、今後の需要などを考慮に入れると、踏み切れない。学校給食費では、令和7年度では約5500万円の繰り入れを行った。これからも保護者負担の増加にならないように配慮するとともに、一定の負担を求めている。



保護者負担の増加にならないように配慮を

Q 循環型社会の構築では役場が中心となり啓発活動の先頭に立たなければならない。これらの構築についての考えは。

A 役場内の各部署において、担当する事務事業を率先して行い、町民の意識の高揚につなげていく。